

結核集団感染の発生について

平成30年12月7日(金) 13:00

北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

TEL:011-231-4111(内線25-506) FAX:011-232-2013

名寄保健所において結核集団感染の発生を確認しましたので、お知らせします。

記

1 発生の概要

名寄保健所管内の医療機関において、職員と入院患者から、結核発病者5名、結核感染者4名の発生を確認しました。

※ 結核感染者とは、結核菌に感染しているが肺結核等を発病していない状態の者。

2 これまでの経過

- (1) 名寄保健所管内の医療機関において、平成29年11月に50代女性の職員が、本年2月に30代女性の職員が、本年6月に40代女性の職員が結核を発病した旨、名寄保健所に届出があり、保健所ではその都度、濃厚接触者である家族等に対し健康調査(問診、胸部X線検査、血液検査等)を実施。
- (2) 3人目の発病者が確認された本年6月以降、保健所は健康調査の対象を入院患者と職員に拡大して、さらに発病者2名(40代女性の職員と80代男性の入院患者)と、感染者4名(いずれも職員)を確認。
- (3) これらの者は、いずれも当該医療機関の勤務歴や入院歴があったため、感染源や感染経路を特定するための疫学調査を継続するとともに、結核菌の遺伝子型を特定するため、本年9月から遺伝子検査を道立衛生研究所で実施。
- (4) 本年12月3日、遺伝子検査の結果が判明し、2名の遺伝子型が一致していたことを確認し、当該医療機関内での感染があったと判断し、結核の集団感染と判断。

3 患者の状況

職員3名が経過観察中、職員5名が通院治療中、入院患者1名が結核以外の原因で死亡。

	届出日(※)	患者	状態	現在の状況
1	H29. 11. 15	50代女性(職員)	結核発病者	治療終了し、経過観察中
2	H30. 2. 20	30代女性()	〃	〃
3	H30. 6. 22	40代女性()	〃	通院治療中
4	H30. 6. 28	80代男性(入院患者)	〃	死亡(老衰)
5	H30. 7. 18	20代男性(職員)	結核感染者	通院治療中
6	H30. 7. 19	50代女性()	〃	〃
7	H30. 7. 19	50代女性()	〃	〃
8	H30. 7. 25	40代女性()	結核発病者	〃
9	H30. 9. 16	40代女性(元職員)	結核感染者	経過観察中

※医療機関から保健所への患者発生届提出日。「9」については、保健所で行った検査結果の確認日。

4 今後の対応

発病者及び感染者は、治療等を受けており、周囲に感染させることはありません。

今後は、発病者及び感染者については、服薬治療等を継続するとともに、胸部X線検査などにより健康状態を確認する。

また、引き続き感染源や感染経路の特定に向けた疫学調査等を行うとともに、医療機関の職員や入院患者の健康状態を定期的に把握するなど健康管理に万全を期することとしている。

5 その他

この件については、本日13時00分、名寄保健所においても資料配付を行っています。報道に当たっては、個人のプライバシー等の保護のため、特段の御配慮をお願いします。

各 報 道 機 関 様

ダニ媒介脳炎患者（国内5例目）の発生について

平成30年6月1日（金）

旭川市保健所健康推進課
TEL 0166-26-1111（内線 2954）
FAX 0166-26-7733

平成30年5月31日（木）、市内の医療機関において、ダニ媒介脳炎患者の発生を確認しました。
本件は、国内5例目（いずれも道内）の発生となります。
その概要については、次のとおりです。報道方よろしくお願いたします。

1 本事例の概要

(1) 患者の年齢等

40歳代，女性

(2) 患者のダニ刺咬歴

あり

(3) 経過

5月29日（火）ダニの刺咬歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い、医療機関が旭川市保健所に連絡。

5月30日（水）北海道立衛生研究所において検査実施。

5月31日（木）検査の結果、陽性と判明。医療機関が旭川市保健所に発生届を提出。

(4) 患者の症状等

発熱，意識障害，髄膜炎，脳炎

2 ダニ媒介脳炎の発生状況

区分	1例目	2例目	3例目	4例目	5例目
届出受理年月	平成5年	平成28年8月	平成29年7月	平成29年8月	平成30年5月
届出受理保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所	旭川市保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代	男性・70歳代	女性・40歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明 (最近の海外・道外旅行歴なし)	道南圏域	道央圏域	道北圏域
その他	—	死亡	死亡	—	—

*報道にあたっては、個人のプライバシー等の保護のため特段の御配慮をお願いします。

3 ダニ媒介感染症の概要について

別紙参照

ダニ媒介感染症の概要について

1 マダニとは

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」やじゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群(SFTS)など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

2 道内のマダニが媒介する感染症

(1) 道内で、過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症は、次のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性遊走性紅斑、まれに心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱（39度以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、けいれん、髄膜炎、脳炎等

- (2) これらは、インフルエンザのように人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して感染することはありません。
- (3) ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72度10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

3 主なダニ媒介感染症発生状況（届出数） H30は、第20週（5月20日）まで

(1) ライム病

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	6	9	3	5	9	0
旭川市（再掲）	2	0	0	0	0	0
他都府県	14	8	6	3	10	0

(2) 回帰熱

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30
北海道	1	1	4	5	5	0
旭川市（再掲）	0	0	2	1	0	0
他都府県	0	0	0	2	3	0

4 予防方法

マダニに咬まれないようにすることが、最も重要です。

草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等肌を露出するようなもの避ける。）、帽子、手袋、首にタオルを巻くなど、肌の露出を少なくすることが大切です。虫よけ（忌避剤）の併用も、効果が期待されます。

5 マダニに咬まれた際の対応について

野外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認すること、マダニの咬着が認められた場合は、無理に自分で引っ張ったりせずに、ただちに皮膚科などでマダニの頭部が残らないように除去してもらうことも重要です。

マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は内科などで診察を受けてください。